

人生ピンチヒッター友の会

ニュースレター 第5号 2018.6.1

～大海を見ながら 教養を深める～

順天堂大学医学部 病理・腫瘍学 教授 / 国際教養学部 教授(併任) 樋野興夫

2018年連休の始まり(4月28日～5月2日)、『ショートクルーズ』(横浜港～釜山見学～神戸港～姫路城観光～神戸空港～羽田空港5日間の旅)に赴いた。2018年4月28日朝日新聞夕刊でも、クルーズ3隻が紹介されていた。英国船籍のダイヤモンド・プリンセス(約11万6千トン、290名、乗客定員約2700名)の船内で、『がん哲学～人生ピンチヒッター～』(4月29日10:30～11:30am)と『がん哲学～空っぽの器～』(5月1日9:30～10:30am)の2回の講演の機会が与えられた。

大変有意義な時であった。朝食、昼食、夕食も皆様との楽しい一時であった。釜山市内観光(梵魚寺、国際市場、チャガルチ市場)と、船上からの夜の釜山港の景色は最高であった。

スケールの大きい姫路城の観光も千姫をはじめ、歴史の復習であった。

5月4日は、クルーズに船上された方とも、池袋でのカラオケの集いに、wifeと参加した。皆様の美声を拝聴しながら大変感動の一時であった。『サンデー毎日』(2018年5月20日号)『がん哲学外来「言葉の処方箋」』(156～159ページ)が掲載されていた。また、『最強の健康法 病気にならない最先端科学編～世界レベルの名医の「本音」を全部まとめた～』(SBCreative社発行)に、私の特別寄稿の『クオリティ・オブ・デスから良い人生を考える』(441～447 page)で、「利己的でハッピーな人よりも、利他的でジョイフルな人の方が人生は輝く」が、紹介されていた。『すべての始まりは「人材」である。「目的は高い理想に置き、それに到達する道は臨機応変に取るべし」・「最も必要なことは、常に志を忘れないよう心にかけて記憶することである」(新渡戸稲造)』の教訓が、今回のクルーズの旅で、大海を見ながら鮮明に甦ってきた。

クルーズは、私も、wifeも初めての経験であった。

高橋様、星野夫妻、牧野様、森本様、津原様、森様、岩崎様、小林夫妻には、本当にお世話になった。人生の良き思い出作りとして、「クルーズ友の会」が、発足される予感がする。



姫路城



釜山港大橋
(釜山のレインボーブリッジ)



国際市場(釜山国際映画祭)



チャガルチ市場

樋野先生がнкаフェクルーズに同行させていただいて

株式会社 クルーズバケーション マネージャー 高橋謙三

今回のクルーズに添乗員として参加させていただいた高橋です。

営業担当をさせていただくことになり、1月8日(日)の樋野先生の横浜での講演会で先生の講演を聴かせていただき、私も先生のファンの一人となりました。

あっという間にクルーズの本番となり好天に恵まれ出航を迎えました。2回の講演&がнкаフェは、共に50名を超える方々に参加いただき本当に嬉しかったです。誰もが関心のある内容を解かりやすく話される先生を尊敬します。1回目の講演の『ピンチヒッター』という言葉に思い出した事があります。

ピンチヒッターとして急に添乗をしたことです。そんな時は、いつも以上に緊張します。

いろんなことがあった30数年を先生の講演を聴きながら、海を眺めながら思い出していました。

クルーズは“振り返り”や“未来”のことを考える時間が多くあります。

また皆様とご一緒出来る近い“未来”を楽しみにしています。